

令和5年度 園評価の結果について

学校法人 北邦学園

認定こども園札幌自由の森幼稚園・保育園

令和5年度に実施した認定こども園札幌自由の森幼稚園・保育園の自己評価の結果の概要は、次のとおりです。

建学の精神 「自然から学ぶ」

1 本園の教育保育目標

◎ 思いやりのある子 ◎ たくましい子 ◎ 考える子

【各年齢・年間のねらい】

- 0歳児 一人ひとり安心してゆったりと過ごし、保育教諭や友だちと一緒に遊ぶことを楽しむ
- 1歳児 保育教諭や友達に親しみをもち、自分の思いを表現して遊ぶことを楽しみ、のびのびと体を動かす
- 2歳児 (くるみ) 色々な事に興味関心を広げ、自分なりの意欲や満足感を感じながら、友だちと一緒にのびのびと活動する事を楽しむ
(たんぼぼ) 保育教諭や友達に親しみをもち、様々な活動への興味関心を広げ、自分らしさを発揮しながらのびのびと遊ぶことを楽しむ
- 3歳児 様々な遊びや活動に興味をもつ中で、自分の気持ちや考えをのびのびと表現しながら友達と一緒に遊ぶことを楽しむ
- 4歳児 様々な活動の中で、友達と一緒に遊ぶことや表現することを存分に楽しみ、気持ちや考えを伝え合ったり、受け止め合ったりしていく
- 5歳児 活動に見通しをもって取り組み、共通の目的に向かって様々な友達と協力したり、互いの気持ちや考えを認めあったりしながら活動することへの充実感を存分に味わう

自己評価	各学年のねらいに対する評価内容
「A」	<ul style="list-style-type: none">一年を通し、学園の指導計画の下、その時期の子どもの育ちを共通理解をし大切にした上で、年間のねらいを意識しながら保育にあたることが出来た。年度末現在の子どもの姿と照らし合わせてみると、どの年齢もねらってきた心の成長が感じられ、目標としてきた成長段階に達することができた。2号園児と預かり保育の混合クラスでは、3～5歳児の異年齢保育を行っているが、その中でも各学年のねらいを心に留め、成長を確かめる指標とすることができた。年齢ごとの時間と異年齢の時間の職員同士が一体となって保育していけるよう今後も努力していく。

(A：成果が上かった。B：ある程度成果が上がった。C：もう少し努力が必要。D：改善が必要。)

2 重点的に取り組んだ目標・計画について

目 標	計 画（具体的な取組方法）
<p>1 「子ども主体の遊び」の充実のための、丁寧な保育について、改めて理解を深める</p> <p>・子どもが主体的に生き生きと生活し、遊びを展開していくための保育環境の創意工夫や安全管理</p> <p>・子どもの人権に配慮した丁寧な保育や「自然から学ぶ」に基づく保育についての理解を深める</p>	<p>☆ゾーンの活かし方や日常的にマンネリ化している環境や玩具について、話し合いを継続し、子ども達の遊びがより充実するよう工夫する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年度（「えほんのおうち」「もりのとしょかん」）に引き続き、今年度は、「森の番屋」と「乳児保育室」のより充実した玩具や環境について研究保育にて話し合い、実践を行う。また、昨年度学び合った2つのゾーンの利用の手軽さや継続した環境の工夫についても、意見を出し合い少しずつ改善していく。 ・日常的にマンネリ化している環境や玩具については、“変わらない安心感”と“より良い成長発達を促す遊びこめる構成”の両面から見直しを図り、職員会議や研究会議、年齢別会議などで、点検・工夫ができるようにする。 <p>☆子どもの安全を守ることと一人ひとりの遊びの「選択」を保障することの両立</p> <ul style="list-style-type: none"> ・引き続き人数確認などや環境チェックなど基本的なことを徹底し、職員が意識的にヒヤリハットに目を向けるようにする。同時に、子どもたちがのびのびと遊べるような職員配置や子どもの安全意識を高める声掛けや援助について常に考え、一人ひとりの遊びの「選択」を保障し、主体性の発揮につなげる。 <p>☆人権に配慮した丁寧な保育や、「自然から学ぶ」の見える化についての工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「人権チェックリスト」を学期ごとに必ず全職員で確認し合う場を設けるなど、一人ひとりが“人権とは”“丁寧な保育とは”を真剣に考え、自分自身の保育を振り返るようにする。 ・昨年度から取り組んでいる「自然から学ぶ」コンセプトブックを通じ、本園の教育保育方針や子どものみとりについての理解を新しい角度で深め、職員が日々子どもの姿から心の成長を感じ取れる視点をもてるようにする。 ・昨年度末に改定した「教育保育課程・指導計画」を各々日々見返すと共に、学年部会等で積極的に活用し、改めて本園の保育の細やかな援助や環境構成を確認することを継続する。
<p>【自己評価】</p> <p>「B」</p>	<p>【評価内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究保育では、これまで積極的に変化させようとしてこなかった環境を、子ども達が遊びこめるよう考え工夫した結果、子ども達の生き生きとした姿が見られ、保育者が常にねらいをもち環境設定することが、子どもの育ちに大きく影響するということを実感できる機会となった。また、乳児年齢別会議の中で、日常の環境について話し合いと実践を継続できた時期もあった。昨・今年度工夫してきた環境が継続して楽しめる環境であるかの定期的な点検・工夫を習慣化については今後努力する必要がある。 ・自由遊び時の「安全」と「遊びの選択の保障」の両立については、職員から議題が上がり、人数配置の工夫について皆で話し合うことができた。しかし、より良い解決策を得るには、子どもの主体性を大事にした援助に対する理解を深める必要がある。今後も職員の人数確保だけでなく子ども達の安全意識を高める声掛けや援助についてより良い考え方を共有していきたい。 ・人権チェックリストや不適切な保育に関する資料を定期的に職員間で共有することができたが、自分自身の保育を振り返るためにはアンケートや意見交換の場がもっと必要であった。「コンセプトブック」については、完成版を共有し、さらに学園の合同研修にて理念と共に理解を深めることが出来た。今後、継続して職員の子どもの理解を深める視点が広がるよう活用していきたい。

2 保護者理解の連携と推進

- ・保護者との連携、相互の理解については、どれだけ意識してもしすぎることはないため、今年度も引き続き細やかな配慮をし、寄り添いながら、子ども達のために連携を推進していく

☆コドモンの積極的な活用

- ・コドモンの利用が定着してきたからこそ、情報共有や意識調査にアンケートを積極的に活用する。(土曜日利用について、行事の参加有無、保育参加の感想など)
- ・昨年度の反省を生かし、行事に関してのお知らせはなるべく早くすること、必要な内容は再周知することを、特に気を付けて配信する。(給食・お弁当日の変更について、行事前の持ち物、絵本の貸し出し返却など)
- ・感染症の発生時にはコドモンでお知らせをすることで、お子様の体調に気を配り、受診の際の参考にしていただくようにする。(これまでは、バスと玄関掲示)
- ・連絡帳(乳児)で子どもの様子を伝える文章が誤解を招く表現になっていないかなど、職員同士で気かけ、すぐに相談できる風通しの良い職場づくりをすることで、保護者との信頼関係に繋げていく。

☆様々なツールでの配信

- ・乳児は連絡帳、幼児は週1回のブログでクラスの様子をお伝えしているが、今年度は、加えてホームページのブログ(「園の毎日」)もより積極的に配信し、動画配信も無理のない範囲で行い、在園児保護者にも閲覧してもらえるよう、園だよりなどで周知する。

☆保護者の積極的な保育参加・行事参観の検討・実施

- ・コロナが5類となったことにより、保護者の方が積極的に保育を見る、保育に参加する機会を作り、本園の教育保育や子どもの育ちに関わる理解を深めていただき、より良い連携につながるようにする。
- ・「自然から学ぶ」コンセプトブックについて、保護者にも触れていただく様に工夫し、本園の保育の理解や子どもの育ちを温かく見守っていただけるよう努力する。

【自己評価】

「B」

【評価内容】

- ・土曜日利用についてのアンケートは、双方の負担感の減少につながった。保育参加した方の感想も回答率が高く、保護者の思いを知る機会となり効果的であった。
- ・行事についての内容は、時期に合わせて内容を分ける・再配信をするなどの工夫が、昨年度までと比べ、保護者との細かな情報共有につながった。しかし、日々の昼食に関するお知らせなどの再周知に関しては、漏れもあったため、やるからには徹底して行えるような仕組みづくりが必要である。(毎日の会議で確認するなど)
- ・コロナが5類となって以降、様々な感染症の流行が見られた中で、保護者からの要望もあり、感染症罹患発生の際には、これまでより細かい情報(個人情報に配慮し必要な範囲)をコドモンでお知らせすることとした。情報の共有により、受診の目安として生かされ、結果的に感染症予防の意識につながったのではないかと考える。
- ・連絡帳の文章や保護者への必要事項の伝え方については、職員間で気に掛け適切に対処することができた面と、個々の判断で報告が遅れるケースがあったため、今後も細かな出来事や情報も密に共有・相談する意識を高めていく必要がある。
- ・保育をより身近に感じてもらうため、ホームページでの動画配信を積極的に行った。しかし、コドモンの連絡帳やブログと違い、更新されたことが自動的にわからないため、動画配信のタイミングで保護者に周知するとさらに効果的だった。
- ・「マザーズ・ファザーズデイ」の実施や、様々な行事での参加人数制限の撤廃、絵本の読み聞かせ会や30周年記念会などの臨時の行事開催など、保護者の方に園に足を運んでもらう機会を増やすことができた。その中で、わかりやすいアナウンス不足などの反省点は早急に改善を試みている。今後も、本園の保育への理解、こどもの育ちの共有、互いの連携のためにも、このような機会を確保・発展させていきたい。
- ・「コンセプトブック」に関しては、保護者に見ていただく機会や環境作りが今年度はできなかったため、今後、掲示等でいつでもみただけのような工夫をする。

3 職員の業務改善の推進や職員の連携、保育能力や資質向上のための学び

・個々の負担感を減らすための協力体制や仕事分担の工夫について意見を出し合い業務改善を推進する。また、意見交換をしやすい雰囲気を大事にし、子ども理解を深める場となるようにする

・研修の参加を無理のない程度に行い、学ぶ姿勢を忘れずに柔軟な考えをもてるようにする

☆業務改善を推進しやすい仕組みづくり

- ・経験年数の浅い職員が安心して業務にあたれるよう、サポート体制を強化する。
- ・管理職の職務分担を明示し、管理職での週1MTを行うことで、報連相や情報共有、職員間の信頼関係を強化していくことで円滑に仕事が進むようにする。また、この目的を皆で共有し、互いに主体的に行動し助け合えるようにする。
- ・職員が心身ともに余裕をもって子どもと関わり職務にあたれるよう、勤務時間内での業務終了を目指す。そのための助け合いの工夫や物品の購入など、日頃からそれぞれ考えいつでも自主的に意見を出してもらおう雰囲気作りをする。

☆意見交換のしやすい場や雰囲気作りと工夫

- ・参加者を絞った会議を効果的に行い、一人ひとりが自分で考え発信し、互いの意見を理解し合える場づくりに取り組む。単なる情報共有の会議で終わるのではなく、課題解決や新たな問いを生み出す対話となるように、目的を明確にし、理念の共有をしながらも職員の主体性が育つようにする。また、できる限り多くの職員が、会議に参加できるよう工夫すると共に、コドモンのアンケート機能を使って、嘱託・パート職員の意見も大切にす。
- ・保育の考え方についてなどの疑問や相談事を伝えられる目安箱のようなものを設置し、誰でも気軽に意見を出せるようにする。

☆研修の参加による、課題の共有と学ぶ姿勢の継続

- ・学園研修が様々な形で常にアップデートしているため、その学びをより多くの職員で共有する。園長副園長研修の中で自園の課題を明確にし、それを職員に伝え実践していくことで、全職員で向かうべき方向を共有していく。
- ・保育内容から保護者対応、マネジメントなど、様々な外部研修に積極的に参加できる環境作りに努めるが、無理なく、学ぶ意欲を持ち続けられるようにする。

【自己評価】

「A」

【評価内容】

- ・経験年数の浅い職員のサポート体制を意識した組織として運営し、それぞれが自覚をもって互いを気にかけることができていた。また、管理職の仕事分担を明示しMTの強化により細やかな情報共有を行うことで、仕事の重複や職員の迷いをなくし、円滑に業務を進めることができた。
- ・一人ひとりの勤務時間に対する意識が高まり、特に大きな行事ではリーダーが見通しを持って仕事を進めたことにより、心身ともに余裕をもって仕事ができる環境作りにつながった。今後も、仕事の効率と丁寧さが必要な部分のバランスを意識していく。
- ・多くの職員が自主的に発言できる雰囲気の会議が増え、様々な問いや意見が出る対話の場となることが多かった。広く意見を求めたい場合には、コドモンのアンケート機能を活用できたことも良かった。30周年記念のお祝い会では、「得意を活かす」プログラムなどを実行し、職員それぞれの主体性が発揮された。
- ・多数ではないが目安箱も活用され、職員の疑問を解消するきっかけとなった。
- ・処遇改善等加算の要件に伴い、今年度も様々な研修の案内があったため、可能な範囲で積極的に参加できていた。やはり、定期的に学びの機会があることで、知識や感覚のアップデートをすることの大切さを自覚できるため、今後も、学ぶ意欲を形にできる環境を整える必要がある。また、学園内での様々な研修での学びについても、今後より具体的に多くの職員と共有していけるよう工夫する。

4 安全管理・危機管理の視点での環境・物品整備の継続

・命を守る基本的な安全管理、環境整備や子どものへの働きかけを継続する

・安全管理と主体的に遊べる環境作りのための園舎内外の環境整備

☆園舎内外の環境整備

・危機管理意識を一人ひとりが高めヒヤリハットに目が行くようにするための報告の場を大切に、他園の事故のニュースなどを迅速に共有するなどし、園舎内外の環境を常に見直し、気づいたことは声を掛け合って迅速に対応する。同時に、子どもたち自身が自分で考え安全に行動できるよう、年齢に合わせた保育教諭からの声掛けを丁寧に行う。

・昨年度のような冬の自動車同士の事故を防げるよう、安全に走行していただけるアナウンス、人員配置、除雪の徹底などの環境整備を続けていく。

*土俵屋根のリニューアル

*もも組、かえで組保育室床張り替え

*つり橋補修

*玉乗りブランコ補修

*森の中の木や駐車場の木伐採（近年、朽ちた木が目立っているため、日々の点検を続けていく）

☆防災用品の備え

・毎年備えを増やしている防災用品に関しては、防災頭巾を全園児分揃え、いざという時にすぐに使えるよう、定期的にチェックし、日頃から子どもたちが使い方を身に付けられるよう、避難訓練などで使用していく。

☆園バス運行の安全管理

・昨年度、見直したバス運行マニュアルについては、今年も詳細を見直していく。置き去り防止装置も設置したが、日々、業務として慣れてしまうことの無いよう、全職員が気を引き締め、添乗者と運転手の連携をしっかりと意識しながら安全を確保していく。

【評価内容】

・ヒヤリハットへの意識は個々でまだ差があるが、気づいたことについて声を掛け合い積極的に改善策を出し合うことはできているため、今後も、職員全員の意識を高められるよう、様々な全国の事例などを迅速に共有していく。また、安全な環境の整備や保育者からの声掛けも大切だが、「子ども達が主体的にのびのび遊ぶ環境」が守られているかに視点を置き、子ども自身が安全意識を高めるための働きかけについて、全職員が考え実行できるような工夫がさらに必要である。

・送迎の際に走行について、保護者の方に安全への意識をしていただけるよう、園だよりで定期的に注意喚起をしてきた。特に冬期間は、気温や積雪状況により、園敷地内の坂道が危険な状態になることが必ずあるため、そのような状況が予想される際には、早めにコドモンでお知らせをしたり、実際に滑りやすい日には、砂まきをして安全確保をした。また、園バスや保護者の車が坂道を下りてくるのが危険だと判断した際には、対応が可能な職員で連携を図りながら、保護者への連絡の他、車の誘導や歩行者の歩く道の確保などを行い、事故を未然に防ぐことが出来た。今後も更なる注意喚起や安全対策を継続していく。

・近年朽ちた枝が目立ち、今年度は近隣住宅の方が気にされていた道路側の枝払いを行うことが出来た。今後も、地域の方の声を真摯に受け止めることや日々の点検を続けていく。

・防災頭巾を使用可能な年齢の園児数分揃えることが出来た。また、いざという時に子ども達自身が使い慣れているよう、避難訓練時には必ず使用してきたところ、予想以上に、子ども達も冷静に使うことが出来ていた。

・昨年度途中から改定したバス運行マニュアルについては、学期の始まりに必ず職員間

【自己評価】

「A」

	<p>で内容を再確認することと、運転手の毎日のチェックだけでなく添乗者の役割についても月に1回リストに沿ってチェックするということを徹底してきた。今後も、日々業務として慣れてしまうことのないよう、全職員が気を引き締められるように、会議などでも細かな共有を忘れず、添乗者と運転手の連携をしっかりと意識しながら安全を確保していく。</p>
--	---

3 今後取り組むべき課題

課題	課題設定の理由
<p>① 「自然から学ぶ」保育の充実のための、学びの機会の工夫、環境の整備や創意工夫</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ここ数年の研究保育を通して、広い森の様々な遊びのゾーンが子どもたちにとって魅力的な環境となるよう工夫してきた。しかし、日常的な設定をしておくことが難しい環境構成や遊びの設定もあったことから、今後は日常的に遊びこみやすい環境構成を考えて設定していくことが課題と考える。その際、各年齢の発達や成長に合わせて場の設定を変化させたり、時には特別な環境構成をすることで、遊びへの興味関心が継続し深まっていくよう創意工夫が必要である。 ・昨・今年度工夫してきた環境について、研究保育実践時で成果が途切れることの無いよう、継続して楽しめる環境であるかの定期的な点検と創意工夫が必要である。 ・様々な場面での「安全」と「遊びの選択の保障」の両立には、子どもの主体性を大事にした援助に対する理解を深める必要がある。職員の人数確保だけでなく子ども達の安全意識を高める声掛けや援助についてのより良い考え方や、「コンセプトブック」の活用、保育の「エピソードトーク」などを通して、学びの機会を工夫し、「自然から学ぶ」保育の充実に向けて職員で同じ方向を向いて努力する。 ・自分自身の保育を常に振り返るために、意見交換の場以外にも、人権チェックリストのより良い活用方法等を工夫する必要がある。
<p>② 保護者との連携や保育理解の強化</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、保護者が気軽に意見を伝えられるよう、日頃からのコミュニケーションを深め信頼関係を築いていくことはもちろん、様々な意見に耳を傾け、子ども達のためにより良い連携をとれるよう工夫していく。 ・保護者参加の行事が増えていく中で、スムーズに運営できるよう、保護者視点に立った細やかな配慮が必要である。その上で、本園の保育への理解、こどもの育ちの共有、互いの連携のためにも、今後もこのような機会を確保・発展させていく。 ・「コンセプトブック」の活用が、本園の保育理念を伝えるものとして効果的だと考えるため、言葉や写真で伝えられるよう環境作りなどを工夫していく。
<p>③ 職員の保育の質の向上への意識と、さらなる業務改善の推進</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・主体的に仕事を進められる仕組み作りを引き続き工夫し、職員間での信頼関係を強化していく。さらに、一人ひとりが組織の中での自分の仕事の成果がわかりやすいよう、アップデートしてきた組織図を共有していきたい。その上で、保育の質の向上のために、互いを認め合い感謝し合って主体的に意見を出し合うことの必要性を職員全員が感じられるような工夫が必要である。 ・ここ数年成果がでてきた業務改善の内容について、さらに前向きに自信をもって業務にあたるよう、新しいアイデアを含め積極的に取り組んでいく。